



▼ 会員増強に思う

「甲府クラブでの活動から感じたこと」

東日本区ヒストリアン 仙洞田 安宏 (甲府)



私の所属する甲府クラブは、かつては会員増強において模範的と言われていました。入会した1994年当時、日本区では「日本区6000」という会員増強運動(区が東西に分かれる前で、会員数6000名を目標)が展開されていました。甲府クラブはこの

運動に共鳴し、その成果として毎月のように入会式を行っていました。私もその一人でした。'92年に39名だったクラブの会員数は、入会した'94年4月に48名、翌年には53名、'97年2月にはクラブ史上最多の57名になりました。しかしその後2000年には47名に減少し、現在(34名)に至っています。

一方 Extension(クラブ拡張)では、松本('88年)、甲府21('90年)、富士五湖('03年)、長野('10年)の4クラブをスポンサーしています。私は富士五湖と長野の設立活動に先輩会員の“カバン持ち”として関わり、“産みの苦しみ”を共有する経験をしました。これらの経験を通して感じてきたことを記してみます。

① きっかけづくり

どんな組織でも仲間を増やすことは永遠のテーマですが、毎日が会員増強デーだったら疲れてしまいます。その点、時折実施される会員増強キャンペーンなどは格好のきっかけとなります。甲府クラブでは周年記念をEMCの機会と捉え、新クラブを設立してきました。何かのきっかけを設定することで、会員増強のモチベーションを高めることができます。

② 強いリーダーシップ

しかし、いくらきっかけがあっても動かなければ意味がありません。甲府の過去の例を観ると、その時の会長や会員増強委員長が強いリーダーシップを発揮した年

は、それに伴い成果も上がっています。

③ 何人かの情熱家(ワイキチ)の存在

それに加え、メンバーの中に数名の情熱家(所謂ワイキチ)がいると心強いものです。富士五湖や長野の設立活動の時、自分だったらとくに諦めていたと思うことが、ワイキチと言われるような先輩会員達の情熱で乗り越え、目的が成就しました。

④ これからの会員増強活動

甲府クラブは本年5月に設立70周年を迎えました。過去の周年記念事業で、3クラブを設立してきたので、70周年の記念事業として新クラブ設立を考えるとのも自然の流れです。EMCに情熱を燃やし、リーダーシップを発揮された故平原貞美さんからもそのような“遺言”を託されていました。しかし平原さんのような情熱を、私や現在のクラブのメンバーが持っているだろうか？ また、これからの社会の変化(人口減少・コミュニティの崩壊・格差拡大・コミュニケーションの多様化・大規模自然災害の多発・未知の疫病の蔓延等)を考えると、これからの「クラブ像」はどうあるべきかと、考えざるを得ません。

そんな中で一つのヒントとなるのは、去る2月1日に開催された「Change! 2022 シンポジウム」で提唱されたアクションプランです。昨年初夏から準備会を始めた新クラブのコンセプトも、方向性に共通するものが多かったので“我が意を得たり”でした。準備会はコロナウイルスの影響で3月から休止となり、水を差された現況ですが、新クラブの“産みの苦しみ”が“産みの楽しみ”となるようなワイズであって欲しいと、偶々の誕生日にそんな夢を描きました。

《 仙洞田安宏さんのプロフィール 》

1953年9月15日 山梨県生まれ
1994年4月12日 甲府クラブ入会
2002年7月 クラブ会長
2004年7月 東日本区地域奉仕事業主任
2015年7月 東日本区書記
2019年7月 東日本区副書記
2011年7月～現在 東日本区ヒストリアン

▼ Change! 2022 アクションプランⅡ

Change! 2022 推進委員長 栗本 治郎（熱海）



昨年は『アクションプランⅠ』を作成、各クラブに会員増強をお願いしてきましたが、残念ながら新型コロナ禍で多数の退会者があり、前年度よりマイナス19名の830名での今期スタートです。

委員会では、今年2月に開催された「Change! 2022 シンポジウム」でのご意見等を参考とし、『アクションプランⅡ』を作成いたしました。

Change! 2022 の名称のように、変えるべきことは勇気をもって変革し、知恵を出し合い、現状を打開して会員増強に新たな取り組みをしていきたいと存じます。

▼ ワイズの抱える課題

- ・会員の減少、会員の高齢化、知名度の低さ、金銭負担
- ・新型コロナ禍における新生活様式でのワイズ活動

▼ Change! 2022 『アクションプランⅡ』の提唱

1. コロナ禍における会員増強と新クラブ設立について
次の3つの方法で目標「830名→1,246名」を達成

(1) 各クラブによる会員増強

2019年7月に各クラブから出していただいた純増目標会員数合計は280名

(2) 新クラブ設立による増員数

3年間で13クラブ 予想人数90～120名
(北海道部1クラブ、他の部は各2クラブ)

新クラブ設立に際し、東日本区YES(ワイズ新クラブ設立サポート)より10万円の支援金が贈呈される。

Change! 2022 推進委員会では、新クラブ設立の助成金制度(スポンサークラブに5万円、新クラブに5万円)を設け、新クラブ設立を支援する。

(3) 会員個人によるアニバサリー・プレゼント・プラン 予想人数50～60名

2020～2022年の間に周年記念を迎えるクラブへの会員候補者(知人・友人)の紹介

《会員増強のための参考事項》

- ・YMCAリーダーOB/OGの卒業後のフォロー
- ・会員勧誘のためのパンフレットの充実化
- ・若者を引き付ける奉仕・社交・研鑽・居場所・ステータス・ビジネスなどを満たせるクラブ
- ・地域奉仕を共に協働している個人、グループと新クラブ設立の可能性を模索
- ・IT時代になり、広域クラブのような新しいクラブ像

2. コロナ禍における「新しいワイズ様式」の模索 クラブ例会等について

(1) ライブとリモートのハイブリッド型例会

ワイズに関心のある候補者がリモートで参加することも期待される。

(2) 部におけるZoomエクステンション委員会の開催

コロナ禍でもZoomによる委員会は今まで以上に開くことは可能(時間・費用)(2ヶ月に1回程度)。参加者は、部長、会員増強事業主査、エクステンション委員長、クラブ会長、Change! 2022 推進委員会委員およびオブザーバー。

3. 地域奉仕、YMCA サービスの在り方について

- ・地域で活動している他の奉仕団体との協働
- ・外向き広報による非会員を巻き込んだ事業の展開(FB、QRコード等の活用)
- ・地域の社協に参加し、地域との関係を密にする。
- ・YMCAとのより強いパートナーシップの構築

4. 外向きの広報について

- ・現在、クラブFacebook(FB)は約30クラブでスタートするも、活用状況が芳しくない。
- ・まずは個人のFBの情報発信者を増やし、クラブFBとともに活発に活用する。
- ・その為に、FBのマニュアル(映像)を作る。
- ・ブリテンやホームページも外向きの広報を意識、QRコードを活用しアクセスを容易にする。
- ・FBやZoomを活用、ワイズの賛同者を増やす。

5. 各種会合におけるキリスト教の儀式について

- ・クラブ例会のプログラムは各クラブで決める。
- ・クラブ外の公式な集まりにおけるプログラムについては、主催者とホストが協議して決める。(長野東日本区大会の例もあり)
- ・ブリテンの形式についても同様とする。

6. 法人化について

知名度、社会的信用度の向上のため法人化を進める。行政の補助金、助成金を受けられる。

7. 国際協会 Challenge 22 『100日会員増強キャンペーン』(9月1日～12月9日)

- (1) 現クラブ会員の配偶者が入会:国際会費は半額(15人以下のクラブでも対象となる)
- (2) 26～35歳のヤングメンバーが入会:国際会費は半額(生年月日を証明する身分証明書「パスポートなど」のコピーを国際本部に提出)何れも、2020年度(後期分)、2021年度(前期・後期分)の国際会費が半額となる。

▼ 各部 会員増強事業主査より

「Change! 2022」の実現に向けて

富士山部主査 ^{たなか ひでたか} 田中 秀宝 (熱海)



会員の増強は各ワイズメンズクラブの運営にとって最大の課題であります。その中、東日本区では「Change! 2022」の実現に向け、2022年度までに、会員数を1,246名にする増強目標を掲げ、今まさにその目標に向けて、各クラブは懸命に、会員の確保に取り組んで頂いております。しかし、その目標の壁となる新型コロナウイルスが世界中で席卷し、逆に、現在も会員数は減少し、今後減ることが懸念されます。

熱海ワイズメンズクラブにおいては、会長の副題である、『楽しく会員増強55名』実現に向け、野田丸が出航しました。深澤年度にまい種が功を奏し、6月中に入会の意思を取り付け、初例会で入会式の運びとなる予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の余波により、初例会は中止となりました。しかし、無事に8月例会にて、1名の入会となりました。目標まで、まだ8名と高いハードルではありますが、EMC委員長の村上ワイズに期待を寄せるところであります。また、新入会員の上田ワイズは住居が横浜なので、熱海市民にとらわれず、他地域からの入会も視野に入れることも必要かもしれません。

昨年度は、初めての試みとして、まずは、メンバー個人の人脈を掘り起こすために、『私の友達、知人を思い出してみよう』と題して例会にてワークショップを開催しました。このワークショップは、家族、会社、学校、近所、親類、友達、サークル、その他と、8つの項目に区分けをして、その項目の対象者を絞って頂き、入会を促す活動を推進しようというものであります。入会には結びつかない訳であります。課題も発見されたことから、本年度も再度実施し、実のあるワークショップにする予定です。

コロナウイルスの終息が見通せない中、熱海クラブでも例会のリモート化も提案されましたが、強いワイズ愛により、原則、皆一堂に集まる例会を継続することになりましたが、現実を直視しながら、出来る範囲の中で、会員拡大と退会者を出さないことに傾注する一年にしたいと思います。

(※上記ワークショップに関しては、Change! 2022 ニュース No.4(2019.10.15 発行)に図を掲載してあります。)

▼ 第1回 拡大EMC事業委員会 開催

会員増強事業主任

伊藤 幾夫 (東京多摩みなみ)



8月19日(水)19時から、今年度の第1回拡大EMC事業委員会を、Zoom利用のネット会議で開きました。

出席者は、各部の会員増強事業主査4名、エクステンション委員長4名、部長2名、Change! 2022推進委員9名、オブザーバー4名の23名でした。

最初に板村哲也理事にご挨拶をいただき、次いで「Change! 2022アクションプランII」について、栗本治郎 Change! 2022 推進委員長から、資料をもとに説明がありました。

続いて、伊藤幾夫会員増強事業主任から、新たに追加されたアクションプランのひとつ『アニバサリー・プレゼント・プラン』について、資料をもとに説明しました。

コロナ禍の中で、ワイズの活動が制限され、各クラブの会員増強も苦戦を強いられている状況があります。そこで、Change! 2022プロジェクトの最終年2022年までにアニバサリー(周年記念、90～5周年)を迎える36クラブに、「お祝い」の思いを込めて、私たちワイズ830名がご自身の友人・知人を「会員候補者」としてプレゼント(紹介)しようというプロジェクトです。もし、全員のワイズが一人をご紹介していただいたら、Change! 2022会員目標の1,246名を軽く達成できることとなります。どうぞ、ご協力をお願いします。

また、各部へのお願いとして、各クラブ会長へのヒアリングと、2か月に1度のZoomによる部内のエクステンション委員会の推進をお願いしました。

次回、第2回拡大EMC事業委員会は、10月21日(水)19:00～20:30(Zoom 会議)です。



【Zoomで行われた第1回拡大EMC事業委員会】

▼ 2020-2021 Challenge 22 の目指すもの

アジア太平洋地域書記
利根川 恵子 (川越)

ワイズメンズクラブ国際協会では、創立 100 周年を迎えるにあたり、“Towards 2022” (2022 年に向けて) を実施し、2022 年までに、世界 100 カ国に 3,000 クラブ、50,000 名の会員を目指しています。その目標を達成するための戦略が

“Challenge 22”です。【写真右=国際協会のポスター】

Challenge 22 の中でも、2019-2020 年度から開始された「100 日会員増強キャンペーン」は、大きな役目を果たしており、昨年度は、6 地域で 117 クラブ、1,600 人の新会員を達成しました。

今年度の「100日会員増強キャンペーン」(9月1日～12月9日)では、以下の3点を重点として取り組みます。

1. 国際会費の割引による入会促進

キャンペーン中に現メンバーの配偶者および 26～35 歳までのメンバーが入会した場合、国際会費が今年度と来年度の 2 年間、半額になります。

2. オープンハウスの開催

会員候補者(個人またはグループ)を、クラブの「オープンハウス」(リアルまたはバーチャル)に招待し、ワイズ運動の目的やクラブの活動を楽しく、リラックスした雰囲気の中で理解してもらうことを奨励します。

3. グローバル・クラブの設立

バーチャルメンバーを含む新しいクラブの型です。最低 5 名は当該区に居住している必要がありますが、バーチャルメンバーは、世界中のどこからでも入会できます。チャーター手順は、今までのクラブと変わりません。例会は、地元に住むメンバーによる通常の例会の他に、年に最低 4 回のバーチャル例会の開催が求められます。

以上の取り組みで、今年度の国際目標である、新クラブ 150、新入会員 3,000、新しい国・地域へのエクステンション 15 カ所の達成を目指します。なお、デイビッド・ルア・アジア太平洋地域会長の目標は、会員を 3,638 名から 4,100 名にすることです。ご協力をお願いいたします。

また、2020 年 2 月～2021 年 2 月の期間における新会員数に基づき、最優秀クラブ、最優秀部、最優秀区、最優秀地域を表彰します。



なお、8月15～16日にアジア太平洋地域会議(ACM)がウェブで開催され、東日本区からは以下の方々が出席されました。

田中博之直前地域会長・IBC 事業主任(東京多摩みなみ)、利根川恵子地域書記(川越)、村野繁地域 BF 事業主任(東京世田谷)、澁谷弘祐地域キリスト教強調事業主任(所沢)、江口耕一郎地域ウェブマスター(東京)、山田公平地域 YMI リエゾン(宇都宮)、澁谷実季地域ワイズメネット事業主任(所沢)、そして板村哲也東日本区理事(東京武蔵野多摩)の 8 名。

▼ 国際の会員増強アワード決まる

8 月の国際会長ニュースに、2019-2020 会員増強表彰が発表されました。この表彰には、会員増強個人賞と会員増強クラブ賞があり、それぞれ以下のとおり発表がありました。おめでとうございます。

会員増強個人賞 (3 名以上の会員増強)

野々垣健五さん (甲府 21)
飯田歳樹さん (東京ひがし)
権藤徳彦さん (東京町田コスモス)
松香光夫さん (東京町田コスモス)
越智京子さん (東京たんぽぽ)
久保勝昭さん (横浜つるみ)

会員増強クラブ賞 (6 名以上の会員増強)

甲府 21 クラブ (7 名増強)

その他の賞では、山田敏明直前理事(十勝)に理事達成賞の銅賞が、鈴木伊知郎直前北東部部長(宇都宮東)にエルマー・クロウ賞が贈られました。

国際会長ニュース(IP e-News)は、下記のアドレスで見ることができます。日本語版ページもあります。

<https://www.ysmen.org/about-us/structure/international-president/>

▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 伊藤 幾夫 (東京多摩みなみ)

8 月には、下記の方が入会されました。(敬称略)

No.	入会者 (クラブ名)	紹介者
1.	杉田 雄二 (甲府)	渡辺 徳之